

令和元年度
青梅市行政評価（外部評価）報告書
（平成30年度実施事業分）

令和2年7月

青梅市行財政改革推進委員会

目 次

令和元年度青梅市行政評価（外部評価）報告書の提出について	・ ・ ・ ・ ・ 1
令和元年度外部評価について	・ ・ ・ ・ ・ 2
外部評価の実施方法について	・ ・ ・ ・ ・ 2
事業評価結果	・ ・ ・ ・ ・ 5
・ 郷土博物館管理事業	・ ・ ・ ・ ・ 6
・ 郷土博物館事業	・ ・ ・ ・ ・ 16
・ 美術館事業	・ ・ ・ ・ ・ 22
青梅市行財政改革推進委員会委員名簿	・ ・ ・ ・ ・ 29

令和 2 年 7 月 日

青梅市長 浜中 啓一 様

青梅市行財政改革推進委員会
委員長 菊 池 一 夫

令和元年度青梅市行政評価（外部評価）報告書の提出
について

このたび、青梅市行政評価実施要綱第 5 項第 1 号の規定にもとづき、青梅市行財政改革推進本部から本委員会に対し、令和元年度青梅市行政評価に対する外部評価の依頼があったことを受け、同項第 2 号の規定にもとづき外部評価を行い、その結果を本報告書にまとめましたので、以下のとおり提出します。

令和元年度の外部評価においては、青梅市行財政改革推進本部にて選定した 3 事業について、事業実施に対する「効率性」、「経済性」、「有効性」の視点により評価を行うとともに、今後の方向性についても示しました。

なお、評価結果をまとめるに当たっては、評価を行った各委員の考えを尊重する観点から、評価結果の統一は行っておりません。

今後、青梅市におかれましては、本報告書の内容を十分踏まえ、これからの事業実施に反映していただくことはもとより、市が実施する事務事業全般に渡っての継続的な改善につなげていただくことを期待します。

以 上

1. 令和元年度外部評価について

現在、青梅市が実施している行政評価については、職員の事務事業に対する意識の向上および成果重視の効果的・効率的な行政運営を図ることを目的に、「青梅市行政評価実施要綱」の規定にもとづき、平成30年度から実施しています。

青梅市行財政改革推進委員会（以下「委員会」という。）による外部評価については、行政評価結果について、経年比較が可能となった令和元年度から、新たに実施することとなり、今回が第1回目の取組となります。

2. 外部評価の実施方法について

(1) 評価の実施

令和元年10月30日（水）開催の「第3回青梅市行財政改革推進委員会」において、出席委員9名により実施しました。

(2) 評価対象事業

外部評価の対象事業は、令和元年度に青梅市が実施した行政評価対象事業のうち、青梅市行財政改革推進本部において、今後、事業を実施していくに当たり、更なる改善が必要と判断し、選定した以下の3事業について、青梅市行政評価実施要綱第5項の規定により、委員会に対し外部評価の依頼があったことから実施しました。

【評価対象事業】

	事務事業名	所管部課
11	郷土博物館管理事業	教育部文化課
12	郷土博物館事業	教育部文化課
13	美術館事業	教育部文化課

※番号は、行政評価シートにおける整理番号。

(3) 評価対象事業のヒアリング

評価対象事業について、所管部署から、1事業につき20分程度、行政評価シートを元に平成30年度の取組等について

説明を受けた後、郷土博物館２事業と美術館事業に分け、各４０分程度質疑応答を行うなど、ヒアリングを行いました。

(4) 評価の実施

事業所管部署に対するヒアリング内容を元に、各委員において、以下の視点による評価を行いました。

① 事業評価

各事業の取組に対し、以下の視点ごとに３段階で評価。

【視点】

- ・効率性…事業の進め方に無駄はないか
- ・経済性…予算の使い方に無駄はないか
- ・有効性…施策達成に向けて有効か

【評価】

- ・A…非常に良い（改善の余地なし）
- ・B…良い（必要に応じて改善）
- ・C…悪い（改善または休廃止を検討）

② 今後の方向性

評価対象事業に対する今後の事業の方向性について、以下の視点で評価。

現状維持	現状の予算、活動内容、事業規模等を継続し実施すること
拡 充	現状の予算、活動内容、事業規模等を拡充し実施すること
改 善	現状維持を基本としつつ、一部改善して実施すること
縮 小	現状の予算、活動内容、事業規模等を縮小し実施すること
休 止	事務事業の優先性や財政状況等を考慮し、一時中断すること
廃 止	事務事業の目的は達成されていないが、今後実施しないこと
終 了	事務事業の目的が達成されたため、事業を終わらせること

(5) 評価結果のまとめ

令和元年度行政評価に対する外部評価結果については、各委員の評価結果を集約し、評価結果を一本化することよりも、委員から寄せられた多様な意見を報告することの方が、今後の市の事務事業を進める上で参考となると考えたことから、評価結果については集計のみ行い、各委員から寄せられた意見等につ

いては、そのまま報告させていただくことといたしました。

なお、評価結果の集計および各委員から寄せられた意見については、次ページ以降に掲載しています。

事業別評価結果

整理番号	事務事業名	所管部課
1 1	郷土博物館管理事業	教育部文化課

【事業の目的】

対象者	目的
郷土博物館入館者	郷土の歴史や民族、自然、文化財等について、各分野のテーマについて調査や研究を進め、企画展などを開催し、広く周知する。

1. 各委員の事業評価

評価 委員	効率性	経済性	有効性
委員 A	—	—	—
委員 B	B	B	B
委員 C	B・C の中間	B・C の中間	B・C の中間
委員 D	—	—	—
委員 E	B	B	B
委員 F	—	A	—
委員 G	B	B	B
委員 H	B	B	B
委員 I	C	C	C

※「—」については、評価が難しい等の理由によるもの。

【評価結果】

	効率性	経済性	有効性
A【非常に良い】	0	1	0
B【良い】	4 . 5	4 . 5	4 . 5
C【悪い】	1 . 5	1 . 5	1 . 5
評価なし	3	2	3

※A：【非常に良い】＝改善の余地なし B：【良い】＝必要に応じて改善 C：【悪い】＝改善または休廃止を検討

【評価の傾向】

「効率性」、「経済性」、「有効性」のいずれの評価項目においても、B評価が最も多くなったことから、本事業については、「必要に応じて改善」という意見が多数となりました。

また、評価対象事業の内容に対し、規定の評価項目による評価は難しいという意見があり、特に経済性に対する評価については、今回の評価対象事業には、その性質上馴染まないとの意見がありました。

【各委員のコメント】

●総合的な意見

委員 A	【郷土博物館事業共通】 ・文化事業であり、入場料を受け取るものではないので、事業としての行政コストをベースに評価することは難しい。 ・本事業については、係る予算を有効活用して、どのようなことに具体的に取り組み、何を実施し、何をやっていないのかを、明確にすることが重要と思われる。 1.どのような対象者に対して 2.どのような目標（どれくらいの来場者に来ていただき、どのような知見を高めて頂きたいのかなどを検証できる形で設定する。）
委員 D	現状では無駄なことをしているとは思えない。しかし、郷土博物館と美術館との複合化を、時間を掛けてゆっくり検討するとのことであったが、そのような根本的な意思決定を遅らせることが、今後の無駄を生む結果となると思う。いつ決定しても反対は伴うものであるから、根本的決定を早くすることが、無駄を少なくする上で最も必要なことである。

● 効率性に対する意見

委員 C	人件費が大半を占めているが、管理実態が見えない。市としての重要な文化資産の管理であるという意識が認められない。
委員 E	・ 入館した日は、受付や館内に人の配置がなく、受付は入館者が自由記入する受付簿があるだけであった。受付を兼ねてもよいので、館内の案内や説明、参観者の質問に答えられるような人の配置があるとよい。 ・ 建物が古くなり、館内が暗く、活気が乏しい雰囲気がある。予算配分の工夫などにより、必要な補修、照明の整備等に努める必要がある。
委員 F	この事業に効率性を求める必要は全くないと考えています。
委員 G	入館者数増とはいかなかったものの、前年度とほぼ同数の入館者となっている。
委員 H	毎年、企画展、収蔵展をいくつも計画し開催して、青梅の歴史を市民に伝えていることには、深く感謝するところである。 情報化時代のスピードを要求される現代において、博物館に行く余裕のある市民の割合はと考えた時に、13万人市民のうちの18,000人弱（約13%）の入館者は良しとしたい。 他に館内の経年劣化、特に照明が暗い、展示ケースが古い等、展示品を観賞する前に、そちらに気を取られるのではないか。
委員 I	バス停や駅から遠い。自動車で行っても駐車場が無い。博物館のある場所自体無駄に見える。

● 経済性に対する意見

委員 C	必要最低限の維持補修しか行わない予算の使い方の是非を問うべきである。現行予算は無駄なく執行され
------	---

	ている。
委員 E	博物館の事業運営に優れた見識、技能を持つ職員が揃っている。その力量を十分発揮できる施設、設備、予算措置になっているか検証する必要がある。市民の日常生活に直結する事業ではないが、文化事業は、市民の文化教養を高め、市民意識を高める上でも重要である。
委員 F	予算に対し適切な支出を行っています。
委員 G	施設の老朽化が著しいと聞く。むしろ予算を投入し、施設のリニューアルも必要なのではないか。
委員 H	現在の展示内容で満足するのであれば、費用対効果としては良いのではないか。 ただし、青梅市の博物館として、グローバルにアピールすることを前提とするのであれば、展示内容の充実、館内のリニューアルが必要と判断する。特にトイレは更新したい。まず、お客様が見るところはトイレである。
委員 I	赤字であれば、特に回復の見込みも無ければ無駄。

●有効性に対する意見

委員 C	文化財の普及と収蔵という最小限の活動を、細々と続けていく方針であるならば有効である。
委員 E	・限られた予算、施設の中で、郷土の歴史、文化財を伝える拠り所として、よく機能していると考ええる。 ・企画展は、郷土青梅について興味・関心をもって理解を深めることができるテーマ・内容を工夫し、充実した展示である。 ・常設展示は、縄文時代から今日までのこの地域の人々の生活、歴史を分かり易くたどることができるようになっている。企画展ら注目しがちだが、常設展の充実が基本になると考える。適宜更新し、新鮮さを保

	つ努力が必要である。 ・入館者を重点にした評価となっているが、博物館の事業は、入館者数では計れないところが大である。この地域の文化財の発掘、収集、管理が重要であり、後代に伝えていく使命がある。行政コストを主にした一面的な評価でなく、博物館の使命を十分考慮した総合的な評価が必要である。 ※施策達成に向けてよく機能していると考えるが、「改善の余地なし」とあるのでAの評価は難しい。
委員 F	資料の収集、保管、調査研究が重要であり、入館者数にあまりこだわる必要はないと考えます。
委員 G	青梅の将来を担う子どもたちや若い世代の方が興味を持つ仕掛けに、もうひと工夫必要ではないでしょうか。
委員 H	展示内容と年齢層ターゲットを加味した工夫を考慮したい。それぞれの年齢で学習できること。 青梅・奥多摩に観光で来た友達に青梅の歴史を紹介してもはずかしくない内容と館内表示設備としたい。（近代的に）
委員 I	有効ではない。

2. 各委員による今後の方向性

評価 委員	現状維持	拡充	改善	縮小	休止	廃止	終了
委員 A		●					
委員 B			●				
委員 C			●				
委員 D			●	※根本的改善が必要。それができないなら縮小			
委員 E			●				
委員 F		●					
委員 G		●					
委員 H			●				
委員 I							●
計	0	3	5	0	0	0	1

【評価の傾向】

今後の方向性については、本事業の継続に対する反対は少なく、「拡充」とする評価も複数ありましたが、「改善」と評価する委員が最も多い結果となりました。

【各委員のコメント】

委員 A	【郷土博物館事業共通】 行政コストをベースに評価検証するよりも、文化事業として下記を明確にし、検証すべきだと思います。 1.目標達成に向けて、何をどのようにして実施したのか。 2.達成成果と目標にギャップがあれば、そのギャップを埋めるために何をやらず、何をやるべきだったのかを検証する。 3.配置されている人員で、来場者数の把握、来場者の性質「小・中・高・一般・市内・近隣・市外等」、ニーズなどを担当者が努力・工夫して把握できるようにす
------	---

	る。 誰も何もしなくとも、全体としての人件費が減るわけではありません。 無料であっても、配置されている人員で、来場者数の把握、来場者数の性質、ニーズを工夫して把握していかないと、対応策が見付けられないのではないか。これが分からないと、誰に対して何を行うかが不明瞭になる。文化事業として、事業の価値創造に努めて頂きたい。 市民目線で何をすべきかをよく検討し、明確な目標を掲げ実施してほしいと思います。
委員 B	【郷土博物館事業共通】 村が合併した成り立ち、また、例として、「昔の新町は水がなく、隣組で井戸を使っていた」、「藤橋の柚保のいわれ」などの歴史を、アニメーションを使って分かりやすく作成してほしい。青梅の成り立ちに興味があって調べたが、どこにもない。高齢者の人しか知らない昔を、今生きていらっしゃる間にアニメーション化し、残していったほしい。
委員 C	【郷土博物館事業・美術館事業共通】 現状のままの改善余地は少ないと思われる。美術館との統合を、スケールメリットの創出という観点で早急に検討すべきである。
委員 D	郷土博物館は市民のための特に子どもたちの教育に必要である。しかし、現状は古臭く暗く、いかにもみすぼらしい。あれでは二度と行く気にならないのではないか。 やっている以上は費用が掛かっても、もっと見映えのあるものにすべきである。このためには必要度の低い美術館を縮小し、その費用を郷土博物館に充てざるを得ないのではないか。

委員 E	・市内小中学校との連携を図り、小中学校で年 1 回くらいは郷土博物館を活用した授業を実施すると、地に着いた学習の機会となる。関連教材は必ずあるはずである。小・中学校在学中各 1 回は経験させたい。郷土博物館の存在に気付かない市民も多い。子どもたちに博物館を知ってもらい、興味関心を持たせたい。 ・多摩川に面した立地であり、多摩川の増水の際の洪水等による被害が心配である。特に収蔵庫について安全対策を十分講ずる必要がある。 ・総合長期計画に「文化芸術活動の拠点となる施設の整備を図る」とあるが、講義室（研修室）等もない状況であり、施設の改善を図る必要がある。また、「文化遺産を生かした町づくりを推進」については、長期的な視点からの具体的な展望が必要である。 ・（長期計画の枠外であるが）市内の動植物の生態や推移、地質の特徴など、青梅の自然（自然史）に関する標本、資料の収集展示も博物館の使命である。学校教育との関連を図りながら整備する必要がある（行財政改革と逆行かもしれないが、市内に相当する施設がない）。市の文化教育の発展のために必要と考える。 ・近くにある宿泊施設の宿泊者への案内、縄文遺跡の説明等について、積極的に取り組み、立地を生かしてほしい。（宿泊者が多い施設との連携が必要）交通の便、日照条件等の立地条件は十分でないが、景観は恵まれている。積極的な取組を期待する。
委員 F	「郷土愛のないところに、地域の繁栄はない」と信じています。 郷土愛を育むうえで、郷土史や自然科学研究の拠点となる当施設は非常に重要です。 利益を生む事業は、ほっといても民間が行います。 郷土史研究や自然科学研究等は、意図して行政機関

	が行わなければ、いつの間にか忘れ去られ、将来に禍根を残すのではないのでしょうか。 青梅市外から青梅市職員になる方々が多くなった現在、当施設を利用して、教職員（特に新人）を対象とした展示・研修を定期的に行い、教職員の方々の資質を高める施策もあってもよいのではないのでしょうか。（現状は新人の時に美術館と合わせ、２時間程度の見学をしているのみと伺っております。） この数年間「青梅市における郷土館のあり方」についての諮問は行っていないと伺いましたが、答申を受けてからの議論の方が、より実りのあるものと思います。 審議の中で郷土館の多摩川氾濫時の水害についての質問がありましたが、建設当時「氾濫を考慮し、ある数値計算に基づき盛土し現状の高さにした」と聞いた記憶があります。
委員 G	施設のリニューアルを検討することが必要です。
委員 H	・釜の淵公園の多摩川の流水に沿った樹木の多い自然環境の中に博物館があり、シチュエーションは抜群である。しかし、建物、館内、展示ケース等経年劣化が進んでいる。特に館内に入った時に照明が暗く、第一印象として館内に入ることを躊躇する人もいる。（私は見ました） 美術館との統合も何年先か分かりませんので、とりあえず館内だけはリニューアルを実施したらと考えます。 入館者の増加については、青梅市人口の約４万人が65歳以上であることから、これら高齢者をターゲットにした企画展を検討したらと思います。ゲートボール、グランドゴルフ等のスポーツをやられている高齢者は元気ですから、学習の機会を考えたいものです。

	青梅市民以外の人々に宣伝すること。宣伝方法もいろいろあります。最近はＳＮＳでしょうか。駐車場が公園とも一緒であり狭い。広くしたい。
委員Ⅰ	・考え方が全くあまい。民間であればとっくに廃止、リストラです。継続を考えるのならば、かなりの一般意見を呑んだり、努力しなければいけないでしょう。 ・委員会の質問で台風１９号の被害は無かったのか質問をしたが、無かったかのような回答があった。 実際には、機械室（電気室）等の被害があった。復旧には多少の予算が掛かったはず。また、入口階段まで水が来たのも確認できた。収蔵物に対する意識も低いのではないのか。危機管理も意識が低い。このまま続けていくのは困難でしょう。続ける場合は、かなりの努力が必要でしょう。 ※２項目目については、郷土博物館事業に対しての意見であったが、内容的に管理事業に該当することから、こちらに掲載。

整理番号	事務事業名	所管部課
1 2	郷土博物館事業	教育部文化課

【事業の目的】

対象者	目的
博物館講座参加者	郷土の歴史や民族、自然、文化財等について、講座を開催し、文化財等の啓蒙と知識を取得する。

1. 各委員の事業評価

評価 委員	効率性	経済性	有効性
委員 A	—	—	—
委員 B	B	B	B
委員 C	C	B	C
委員 D	—	—	—
委員 E	B	B	B
委員 F	—	A	A
委員 G	B	B	B
委員 H	B	B	B
委員 I	C	C	C

※「—」については、評価が難しい等の理由によるもの。

【評価結果】

	効率性	経済性	有効性
A【非常に良い】	0	1	1
B【良い】	4	5	4
C【悪い】	2	1	2
評価なし	3	2	2

※A：【非常に良い】＝改善の余地なし B：【良い】＝必要に応じて改善 C：【悪い】＝改善または廃止を検討

【評価の傾向】

「効率性」、「経済性」、「有効性」のいずれの評価項目においても、B評価が最も多くなったことから、本事業については、「必要に応じて改善」という意見が多数となりました。

また、評価対象事業の内容に対し、規定の評価項目による評価は難しいという意見があり、特に経済性に対する評価については、今回の評価対象事業には、その性質上馴染まないとの意見がありました。

【各委員のコメント】

● 効率性に対する意見

委員 A	文化事業なので、事業としての行政コストをベースに評価することは難しい。 本事業については、係る予算を有効活用して、どのようなことに具体的に取り組み、何を実施し、何をやっていないのかを、明確にすることが重要と思われる。
委員 B	子どもたちが来て、感想は確認しているか。 大人でも分かりにくく、興味が薄い展示になっていないか。見直しが必要だと思う。
委員 C	来館者の一割弱を市内の小中学生が占めているが、市内の小中学校全てに、授業の一環として来館するように、教育委員会とも連携して取り組むべきである。
委員 E	・無駄は発見できなかった。 ・管理事業の事業評価のコメントと同じ。 ・限られた予算、施設整備の中で、効率的に運営されていると考える。
委員 F	郷土博物館事業と効率性は相入れない部分が多いと考えていますので、評価は差し控えます。
委員 G	博物館講座について、おおむね目標参加者を達成できている。
委員 H	講演会 3 回／年で参加者が約 1 5 0 人弱であり、テーマは分かりませんがまずまずと思います。

	テーマに魅力が無ければ集客できないし、生産年齢層は土日でなければ参加できません。 広報もいろんなメディアがありますので、検討要だと思う。
委員 I	無駄が多すぎる。

●経済性に対する意見

委員 B	興味を持って来館してもらえる取り組みに予算を使ってほしい。
委員 C	そもそも博物館事業としての予算措置がなされているとは言い難く、無駄という検証が成り立たないが、その範囲内では経済的である。
委員 E	・無駄は発見できなかった。限られた予算の中で効果的に運営されている。 ・管理事業の事業評価コメントと同じ。
委員 F	予算案に対し、その決算において無駄な支出は見当たりません。
委員 G	課題（会議室）の解決に向け、予算の使い方にひと工夫が必要ではないでしょうか。
委員 H	単位コスト、市民1人当たりコストも高くなっている。費用対効果からは、費用低減か参加者を増やすかのどちらかであるが、人口減少化が更に進む中、参加者を増やすことは難しい。 3回の講演会を2回にして費用削減するか。 毎年講演会を続けるとテーマを探すことも大変であり、同じ様なテーマになりやすい。わりと身近で魅力あるテーマを探して頂きたい。
委員 I	無駄が多すぎる。

●有効性に対する意見

委員 C	市としての文化行政に対する熱意の感じられない状況である。
委員 D	郷土史に関心のある人はそもそもそんなに多くいるとは思えない。だからと言ってやらなくていいとは思えない。有効性は低いことを承知の上で、歴史講座等は市民の歴史認識向上のために、継続して実施しなくてはならない。
委員 E	・企画展と関連した講座内容の設定は、企画展の展示内容の理解を進める上で効果的であり、テーマ設定もよい。 ・事業評価の説明 A（非常に良い）について、「改善の余地なし」とあるが、改善の余地なしといえるような事業はあるのか疑問である。非常に良いと考えても、改善の余地なしとあると、Aの評価は難しい。
委員 F	限られた予算内での活動に努力が見られます。
委員 G	多くの市民が参加し、交流できる講座の選定や開催方法を検討し実施してください。
委員 H	市内老人会、老壮大学等で講演会のテーマを探したりしていますので、出前の検討を考えたい。 また、小・中学校、市内高等学校等へも出前にて講座の機会を検討したい。 市民への募集方法について、SNS等も含め更に工夫を望みたい。
委員 I	有効ではない。

2. 各委員による今後の方向性

評価 委員	現状維持	拡充	改善	縮小	休止	廃止	終了
委員 A		●					
委員 B			●				
委員 C			●				
委員 D			●				
委員 E			●				
委員 F	●						
委員 G			●				
委員 H			●				
委員 I							●
計	1	1	6	0	0	0	1

【評価の傾向】

今後の方向性については、本事業の継続に対する反対は少なく、「現状維持」や「拡充」とする評価もありましたが、「改善」と評価する委員が最も多い結果となりました。

【各委員のコメント】

委員 D	市民の郷土史への認識を深めるため充実した企画をする必要がある。幸いなことにこのための費用はそんなに多くは掛からないようである。さらに博物館講座はどこでも開催できるわけであるから、市民の集まりやすい会場で開催すれば、なおよろしいのではないか。
委員 E	・企画展の参観が展示内容に興味関心を深め、講座参加の動機になっていると推測する。企画展等一般入館者に対して、講座開催を積極的に伝えるような工夫が必要である。そのためにも、一般入館者に対する丁寧な展示案内や説明、講座案内など、参観者とのふれあいが必要である。

	・講座は専門性が高くなり、参加者が限られる面もあると考える。参加者数にとらわれた評価については検討が必要である。
委員 F	郷土史研究とその教育は非常に重要であり、その拠点である郷土博物館は拡充すべきと考えていますが、厳しい財政事情を考慮すると、現状維持を続けざるを得ないと考えます。
委員 G	課題解決（講座・講演用会議室）に向けて、具体的施策が必要ではないでしょうか。
委員 H	・市民に青梅市の歴史・文化等の知識を学習する講座は重要であると考えます。しかし、多様化している現代において優先すべき事項が別にあると思う。これらの人々を、こちらを一番にするためには、心を引き付ける魅力ある講座テーマが必要です。一概に魅力と言っても年齢層により大きく違いがあるので、アンケートを取るのもひと工夫かと思います。 ・市内には、小・中学校、高校が沢山あります。授業の中に青梅市の歴史・文化等を学習するカリキュラムを組んで頂き、青梅市文化財保護審議会委員の方々が出前講座をして、生徒に対して知識を得るようにする。

整理番号	事務事業名	所管部課
13	美術館事業	教育部文化課

【事業の目的】

対象者	目的
観覧者、美術館利用者	市民の美術の振興を図る。

1. 各委員の事業評価

委員 \ 評価	効率性	経済性	有効性
委員 A	—	—	—
委員 B	B	B	B
委員 C	B	B	C
委員 D	—	—	—
委員 E	B	B	A
委員 F	—	A	A
委員 G	B	A	B
委員 H	B	B	B
委員 I	B	B	B

※「—」については、評価が難しい等の理由によるもの。

【評価結果】

	効率性	経済性	有効性
A【非常に良い】	0	2	2
B【良い】	6	5	4
C【悪い】	0	0	1
評価なし	3	2	2

※A：【非常に良い】＝改善の余地なし B：【良い】＝必要に応じて改善 C：【悪い】＝改善または廃止を検討

【評価の傾向】

「効率性」、「経済性」、「有効性」のいずれの評価項目においても、B評価が最も多くなったことから、本事業については、「必要に応じて改善」という意見が多数となりました。

また、評価対象事業の内容に対し、規定の評価項目による評価は難しいという意見があり、特に経済性に対する評価については、今回の評価対象事業には、その性質上馴染まないとの意見がありました。

【各委員のコメント】

●総合的な意見

委員 A	文化事業なので、事業としての行政コストをベースに評価することは難しい。 本事業については、係る予算を有効活用して、どのようなことに具体的に取り組み、何を実施し、何をやっていないのかを、明確にすることが重要と思われる。
------	---

●効率性に対する意見

委員 C	ダンボールアートの取り組みが成功を収めている。 その成果等を次年度以降に反映させる取り組みは不十分である。
委員 D	無駄なことをして余計な費用が掛かっているとは思えない。
委員 E	限られた予算、人の配置、施設設備の中で効率的に運営されている。
委員 F	美術・芸術は効率とは無縁の所に存在すると考えていますので、評価は差し控えます。
委員 G	30年度の事業目標どおりに進められている。
委員 H	特別展「ダンボールアート遊園地．集まれ子どもたち！」は、多くの観覧者が来館し観覧者数の増加となっている。この様な参加型の展示は、観覧者増加に有

	効と考える。その他の展示にもひと工夫を求めたい。
委員 I	良いです。H 3 0 年度は問題ありません。

● 経済性に対する意見

委員 B	ガラス窓が汚れているなど、全体的に埃っぽい印象を受けた。修繕等の前に埃等をきれいにするだけでも干された印象はなくなるのではないかと思う。清潔感が出るよう取り組んでほしい。
委員 C	単位コストが高額となっているが、少ない予算の中では効果を上げていると思われる。
委員 D	郷土博物館と比し経常費用が 1 億円近く掛かっていることは驚きである。その多くが固定費であるから根本的に美術館をどうするか考えない限り、大きな費用の節減はできない。
委員 E	「効率性」と同じ
委員 F	予算案に対し、その決算において無駄な支出は見当たりません。
委員 G	特別展について、多くの観覧者を実現できている。 (前年度比：3 倍以上)
委員 H	・美術館の管理経費、事業経費に対して観覧料金との費用対効果は低い。しかし、青梅市美術館は、青梅市の文化を提供するものであると考え、ある程度の歳出はやむを得ない。 ・お客様第一であることを考えれば、経年劣化による緊急修繕は早急に実施すべきである。
委員 I	良いです。 ただし、施設の老朽化のため、光熱費が掛かっているのではないのでしょうか。美術品は常温しなくてははいけませんから、光熱費が掛かると無駄になる場合があるので、予算の組み方に注意です。

●有効性に対する意見

委員 C	市の中にある多くの私立美術館等とのネットワークづくりや、情報発信の取り組みが不足している。
委員 D	二次評価の中に「入場料収入を確保する観点からも～」とあるが、その金額はわずか5百万円で費用の1/20である。増収策を考えるより費用の根本的な節減を考えるより他に方法はない。美術館の建物を活用して他の用途に使えないのか。
委員 E	・企画展「西多摩を描く」は、絵画鑑賞と同時に、地域について理解を深めることができる内容。特別展「ダンボールアート」は楽しい体験型の展示でユニーク。開催時期（夏休みが入る）、展示内容（恐竜など）設定適切。 ・実技講座、鑑賞講座も充実。回数増を期待。 ・「展覧会のご案内」等のパンフレットも明るく、きれいで整理された構成で分かりやすい。 ・常設展示の充実が重要。適宜更新し、常に新鮮さを保ち、一層魅力ある常設展示を期待。 ・現状の諸条件の中で達成されていると考える。
委員 F	眺望のよい所に立地している事自体が、青梅市の芸術振興に寄与していると考えています。
委員 G	観覧者数だけが企画の良し悪しを決める物差しではないものの、判断するためのものではある。そのため、青梅に相応しく且つ市民のニーズに合った企画を引き続き立案し実施いただきたい。
委員 H	特別展は大成功であったことから、類似の子ども向けおよび大人、高齢者向け等のテーマ内容を考え、観覧者の増加を目指していきたい。
委員 I	一定の有効性はあります。ただし、10年先のことを考えると、現在の場所に美術館は、施策達成が困難になるのではないのでしょうか。

2. 各委員による今後の方向性

評価 委員	現状維持	拡充	改善	縮小	休止	廃止	終了
委員 A		●					
委員 B			●				
委員 C			●				
委員 D				●			
委員 E			●				
委員 F			●				
委員 G			●				
委員 H			●				
委員 I			●				
計	0	1	7	1	0	0	0

【評価の傾向】

今後の方向性については、「拡充」や「縮小」とする評価もありましたが、「改善」と評価する委員が最も多い結果となりました。

【各委員のコメント】

委員 A	1. やった取り組みの結果を来場者数で検証すべきだと思われる。 2. 東京都の美術館はどこも賑わいを見せている。そこから取り入れることも必要。 3. そこから企画展の概要、期間、来場者数、内部対応人員などを参考とし、どういう仕事を効率化し、効率化した時間を何に投入したのかを検証すべきである。 4. 例えば、民間人が保有されている美術品等を借り受け、幅を広げて展示会を図るなどの来場者を増やすための工夫も色々と検討できるのではないか。
委員 B	昨年度のダンボールアートは、参加型の催しで、とても良かったと思う。口コミで評判が広がり、市外の

	人も入館していた。そのことにより、美術館に対するイメージも変わり、存在感も増したと感じた。 今後も、子供たちが楽しめるアート作品や参加型のイベントを企画していったほしい。
委員 D	市が市民のために運動場を提供するのと同じように美術館を提供することは、市の施策として必要である。 しかし、スポーツをする市民の人数に比べると、美術の愛好者ははるかに少ないのではないか。この点において、市の財政の事情を考慮せざるを得ないのではないかと思う。 同じ市の施策でも、市民の生活に直結している施策を縮小することはできないが、個人の生活でも趣味に属する分野では、最終的には財政の事情に影響されることはやむを得ないものとする。 個人の生活でも、生活に余裕のある人が趣味に資金を支出することができることと全く同じで、今の市の財政では、残念ながら縮小を考えざるを得ない。
委員 E	・美術館としての落ち着いたアカデミックな館内の雰囲気、館内からも鮎美橋を中心に多摩川を一望できる景観は、青梅の文化、自然の豊かさを象徴している環境である。常設展示を含めて、代表的な収蔵品を展示するなどして、広く市民に無料で開放し、美術館の存在をアピールする行事が年1回くらいあってもよい。多くの市民が足を運び、親しまれる場であってほしい。 ・1階の市民ギャラリー、研修室は、市民一般の文化教養向上に大きく貢献していると思う。活用について、更に広く市民に広報し、一層多くの市民の団体、グループなどが利用できるよう努めてほしい。その利用者や受講者、参観者が、企画展等も参観し、入館者増にもつながる。 ・今後の方向を考えてのことか、館外（多摩川）の手

	入れが不十分になっている。美術館にふさわしい、館外を含めた館全体の環境整備を望みたい。 ・「市内の美術関連の地域資源を活用したアートによるまちづくりの推進」が、総合長期計画に示されている。「Art の地産地消」はその一環と考えるが、関連団体等との連携について現状を確認し、地域資源の一層の活用推進を期待する。
委員 F	・展示、教室、駐車場等で、ネッツたまぐーセンターとの連携を密にした運営を希望します。 ・青梅市美術館の位置づけをはっきりさせ、収納品の洗い直しも必要と思います。
委員 G	企画内容が大切であると思ったからです。
委員 H	・30年度は、前年に比較して2倍の観覧者数の増加となった。次年度も集客力ある展示を提供しなければ、観覧者は低下する。したがって、集客力ある企画を考えることと、青梅市以外の人々にアピールしていくことが、増加の一助となると思います。 ・吉川英治記念館も2020年9月開館する予定と青梅市から聞いていることから、美術館、博物館、吉川英治記念館の3館をめぐるコラボ入場券を販売したと思います。入場料を取る所、取らない所がありますが、3館周遊することで、青梅市の観光にも影響大であると思われます。 ・公共施設等総合管理計画に掲げられている美術館と博物館の総合計画に、新たに吉川英治記念館も加えての計画を検討しなければ、負の遺産をいくつも抱えることになるため、1か所に集約すべきと考える。
委員 I	H30年度は特に問題ありませんが、数ヶ月ごとに目玉的な美術イベントをやる必要はあると感じました。美術館と博物館の統合は、慎重にやらないと失敗すると感じました。

青梅市行財政改革推進委員会委員名簿

区 分	氏 名	備 考
委員長	菊 池 一 夫	
委 員	水 村 美穂子	R 1. 12. 26 退任
委 員	川 合 純	
委 員	原 島 正 之	
委 員	手 塚 幸 子	R 2. 2. 1 就任
委 員	島 田 彩	外部評価欠席
委 員	宇津木 順 一	
委 員	田 邊 晃	
委 員	大 住 修 司	
委 員	伊 藤 武 夫	
委 員	細 谷 秀 秋	